

山弓連

平成十四年
第十五日発行

新生会報第一号に寄せて 会長 安藤秀保

平成十四年度が力強く発足して、一ヶ月が過ぎました。季節の移りが早かった今年も周囲の景色もすっかり初夏の色に包まれてきています。この時期にあたり、ここに、衣替えをして新しいまおいに変わって、今年度会報第一号を送ります。

振り返ってみますと、「山弓連会報」という名で初めて発行し始めてから、すでに十五年になります。間、同じ担当者、同じ調子で書き続け、このまやまンネリに陥っていることを反省して、この際、マンネリは停滞をもたらします。その際、編集の仕事を経務部に戻すことにしました。幸い新しい担当者を得て、新しい感覚で、更に内容の充実を目指して、いくつになりにました。どうか御期待下さい。

しかし、「良い会報」は、単に担当者ひとりの努力で出来るものではありません。「よりよい読者があり」「よい情報提供者」があり、更には「編集へ」、よい注文申請者があり、それぞれ立場から、会員全体の努力や協力がある、その結果「集積」が、「良い会報」を作っていくことにつながるものだと思います。そういう意味で、会員の皆様への協力をひとえにお願いいたします。

この会報が、山弓連の発展と共に、益々充実して、芽のつづけることを願っています。

皆様への「奥の細道」の冒頭にこんな句があります。旅に出る為、今まで住んでいた江戸深川の家を去るとき、心境を詠んだ句です。

草の戸も 住み替わる代ぞ ひなの家
草の戸が賑やかな家に生まれかわるよう、期待しています。
なお、編集子として(会長という立場でなく)ひとこと、長い間この会報をかかわりがつて頂いたことに感謝し、併せて、つまらない文章(編集)で紙面を汚してきたことをお詫びして、新時代にバトンタッチします。

段位別選手権大会 小瀬武道館弓道連

平成十四年四月二十一日開催

参加者数 九〇名

全会員が一同に参加して朝を競える年に一度の機会、それが段位別弓道選手権大会ですが、四月二十一日(日)に小瀬武道館弓道場で行われた大会には、約九〇名が参加して、盛大におこなわれました。

射侯は八射で結果は次のとおりです。(競技部) ○に数字が的中数(同中は競射による)

種別	一位	二位	三位
三段	水上梨沙	深沢琴歌	渡島悦男
以下	(石和) ⑧	(白根) ⑦	(御坂) ⑥
四段	細野晃司	河西宏希	市川 明
	(甲府) ⑧	(楯形) ⑦	(境川) ⑤
五段	櫻井健一	渡邊元樹	荒井壽一
	(双葉) ⑦	(河口湖) ⑥	(富士吉田) ⑥
称号	佐野辰巳	白須吉人	中込 実
	(南都) ⑧	(富士吉田) ⑦	(楯形) ⑦

以上のように、今年度の大会では5段の部以外では優勝者は皆中の成績で、それに続く選手も成績も拮抗しており、全体に気迫の籠もった試合内容でありました。

この大会は全日本選手権大会と関東地域弓道選手権大会の予選も兼ねており、羽介以上の成績を得た人、並びに会長推薦を得た人は5月13日の第2次予選会に出場する権利を得ました。3次予選通過まで、各選手とも調子を整えて、山弓連を代表する権利獲得を目指して頑張ってください。

(天野 裕)

四月二十五日

小瀬武道館修葺会において、第一回規約検討委員会が開かれました。これは、三月の総会決議に基づき開かれたもので、委員はこれまで理事長経験者、現規約作成に携わった方々の中から会長の指名を受けた人によって構成されます。中沢利正、安藤秀保、遠藤航一、坂本致英、有賀武雄、古屋俊彦、天野 裕の七氏で各委員の互選の形で前古屋理事長を委員長に選出し、早速、規約の各条の読み直し作業に入り、構成や問題点の洗い出しを開始しました。各委員の意見は会員の資格要件、会費、大会参加資格をはじめ、山弓連全般の在り方、将来に至るまで広がったが、第二回目ということもあり、見直し作業の手順を確認して六月の次回まで各委員個人作業に託しました。会員の皆様には、山弓連の在り方に関しての意見をお持ちの方は、連絡の取り易い委員へお寄せ頂ければ検討委員会での参考に反映できると思っています。理事長

来る五月十二日

小瀬武道館弓道場において、関東地域連合審査が行われる予定、四月二十七日の締切で各都県の申込状況は静岡二名、山梨十八名、埼玉七名、東京第三地連十五名、長野十三名、群馬六名、東京第二地連三名、千葉、神奈川が書各二名、計九八名となった。昨年の七名より五名の増加となったが、この審査会は各都県それぞれの審査日程の影響を受け易いため、受審者数の変動は致し方ないが、地元で開催される審査には積極的に挑戦して欲しいものです。十八名の山弓連会員の成功を祈ります。(理事長)

団体出場目指して頑張っています

平成十四年度選手強化を一月以降新しいスタッフのもと、成年男子は団体入賞を目指し、成年女子は団体出場を目標に強化に努めています。会員の皆様の協力と応援をお願いいたします。

成年男子

監督・深沢勇 コーチ・藤本芳朗
選手・中込実 荒井壽一・細野晃史・矢野宏幸

成年女子

監督・小林弘子 コーチ・大和田幸子
選手・佐野弥生・水上理沙・大久保涼子・秋山真紀
橋本佳代子・功力美幸・保坂亜紀・小高夏美
河西未緒・深沢琴歌・大野陽子

(強化部長 坂本致英)

寄稿 「無心と遊於芸」

宮本武蔵が五輪書で、弓に関する心のありようについて書いている、弓を射るのだと意識を忘れて、何も考えずに射る時のふだんのまの心で弓を射れば弓が定まる。この道にせよ、この一筋に命をかける、と気負った心が胸にあるようでは、真の道とはいえない。胸の中に何も無い人こそ本道の道を得た人である。いっとく功が積もり、稽古が重なる、もはや、よくしようという気負った心はさらさらなくなつて、何事をするにも、それを意識せず、無心無念になつて心に気負いがなくて、体や手足が日頃の修練のままに動く、無心の状態であるときに、皆あたるのである。無心であっても、まるつきり心が無いのではない、ただ平常心である。心を自由に解き放す、体は自由に動きがでる。

遊於芸というのが論語にある、目的とか、義務とか、と言うのではなく、楽しみ遊ぶこと、それが人生の至上の幸福だという。識っている人は好きだという人には及ばない、好きだという人は楽しみ遊ぶ人には及ばない。五輪書の無心と孔子の遊於芸と相通している事に感心する。

(望月勝男 南巨摩北支部長)



編集担当者より

今年度から、山弓連会報の編集を担当することになりました。甲府支部の事務担当者として、安藤会長からの依頼でこの大役をお受けすることになりましたが、よろしくお願いたします。安藤会長の編集のように、立派にはできませんが、できるだけ内容豊富な記事にしたいと思っております。皆様のご協力をお願いします。尚、各記事は会長はじめ各専門部からの情報と、会員の皆様の寄稿を掲載したいと思います。随時情報をお寄せください。また、会報発行は、基本的に毎月発行ですが、随時といたしたいと思います。

寄稿連絡先・新藤雄平・甲府市湯村一丁目七一
電話・fax 0562821288

電子メール ando02@mx2.nus.ne.jp

(メール歓迎)

発行責任者・天野 裕

(次号の原稿締め切りは、六月二十日)